

平成30年(2018年)

3月
5日号

SOKA

〒340-8550 ☎048-922-0151(代)
草加市高砂1-1-1 ☎048-922-3091

ホームページ

草加

検索



無料で配信中

配布に関する問い合わせは(土・日曜日、祝日を除く)

松原1~4丁目

松原団地見守りネットワーク… ☎048-933-9500

その他の地域

シルバー人材センター …… ☎048-928-9211

平成30年度 施政方針 草加市は11月1日で市制60周年 「共に創ろう! 快適都市、草加。」

2月21日、市議会2月定例会が開会され、田中市長は平成30年度の施政方針を表明しました。その中で、「昭和33年11月1日の市制施行から本年度で60周年を迎え、本市では『共生』の実現に向けた取り組みが進み、文化・福祉・教育・子育てなど、あらゆる分野で市民力・地域力が発揮されている。こうした力は市民の皆様のまちへの『愛着と誇り』が原動力となっており、60周年では、様々な記念事業などを通じて、まちへの『愛着と誇り』のさらなる醸成を図っていく。そのため、今後さらに地域に関わる全ての人々と『共』に協力し、まちの魅力や地域の豊かさをより一層『創』り出していきたい。市民の皆様とつながり、支え合う中で、豊かさを実感できる『快適都市-草加-』の実現に向け取り組んでいく」と、これからのまちづくりに向けた抱負や平成30年度における重点施策の具体的な取り組みについて述べました。

以下、平成30年度施政方針の全文を掲載します。



市議会で施政方針を表明する田中明草加市長

平成30年草加市議会2月定例会の開会に当たりまして、市政運営に臨む所信の一端を申し述べ、議員の皆様をはじめとする市民の皆様のご理解を賜りたいと存じます。

①市制60周年を迎えるに当たって

本市は、昭和33年11月1日の市制施行から、本年度で60周年を迎えます。50周年のテーマであります「共生」の実現に向けた取組が進み、この10年間で、文化・福祉・教育・子育てなど、あらゆる分野において、市民力・地域力が発揮されてきました。こうした力は、まちへの「愛着と誇り」が原動力となっており、それは、平成28年度に実施した「草加市民アンケート」において、76.5%の方に「今後も草加市に住み続けたい」とご回答いただいたことにも表れていると感じております。

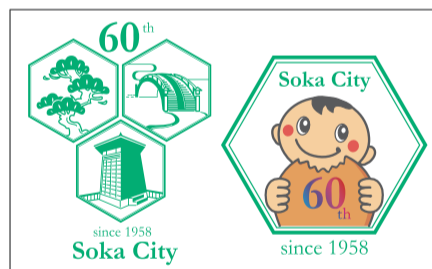
そこで60周年では、今日まで草加を築き上げてこられた方々に敬意を表すとともに、様々な記念事業などを通じて、市民の皆様がまちを知り、体験・共感していただくことで、まちへの愛着や誇りのさらなる醸成を図ってまいります。

60周年のテーマ

「共に創ろう! 快適都市、草加。」

そのため、今後さらに、地域に関わる全ての人々が、「共」に協力し、様々な資源を活用することで、まちの

魅力や地域の豊かさを、より一層「創」り出していき、そして、「いつまでもこのまちで暮らしたい」、「このまちで子どもを育てたい」と実感できる快適都市を「創」っていき、という思いを込め、60周年のテーマは、「共に創ろう! 快適都市、草加。」とさせていただきます。



市制60周年シンボルマーク

②市政運営の基本的考え方

現在の社会状況

さて、市制施行当時、約3万5千人だった人口は、60年後の現在では、約24万8千人まで増加しました。

また、近年の我が国の経済情勢は、長期にわたる景気の回復基調が続いており、内閣府の発表によりますと、バブル期を超え、戦後2番目の長さとなっております。

一方で、本市の人口は、平成27年に初めて、出生者数が死亡者数を下回る自然減へと転じました。今後も、全国的に人口減少、少子高齢化は進んでい

くものと予想されており、特に、生産年齢人口の減少は、税収の減少や、労働市場における人手不足につながる懸念されます。

住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり

「不易流行」という言葉がございます。草加にもゆかりのある俳聖・松尾芭蕉が、「おくのほそ道」の旅の中で見出した俳諧の理念の一つです。この言葉は、「不易は永遠に変わらないこと、流行は時々に変化することで、俳諧は、その両面をもって深めていくことが大切である。」という意味です。

平成31年5月より、新たな元号にかかわることが決まりました。新たな時代が始まるようとしておりますが、「不易流行」の言葉のとおり、引き続き、これまで築き上げてきた行政基盤を活かすとともに、時代の変化にも対応していき、その両面を進めていくことで、今後も、若い世代の方々に住みたい、住み続けたいと思っただけのまちを目指し、魅力あるまちづくりを進めてまいります。

昨年4月には、「松原団地駅」の駅名が、「獨協大学前<草加松原>駅」へ改称されました。これを契機として、国指定名勝「おくのほそ道の風景地草加松原」など、本市の歴史と文化を活かしながら、まちの魅力をさらに高めてまいります。また、「大学があるまち」として、本市とともに歴史を重ねてきました獨協大学とともに、若い活力にあふれているまちであることを

PRしてまいります。

本年は、東京外かく環状道路の千葉県区間の開通も予定されており、交通の利便性の向上や、地域間のさらなる連携が期待されます。本市としましても、こうした「つよみ」を活かしながら、引き続き、埼玉県企業局と連携した柿木地区での企業誘致などを通じて、雇用の創出や若い世代の流入、税収の確保に努めてまいります。

このような地域経済の活性化に関わる取組とともに、市民の皆様のご生活において豊かさが実感できるように、市の事業を着実に進めてまいります。

併せて、国が掲げる「働き方改革」の実現方策の一環として、子育てと仕事の両立のための待機児童対策も進めてまいります。

「市民力」こそ「まちの力」「つよいまち」を目指して

住み続けていただくための安全・安心に関わる対策により、「つよいまち」をつくることも重要性を増しています。

昨年7月には、九州北部豪雨により甚大な被害が発生し、市内でも突風による被害が生じました。

また、交通や防犯に目を向けますと、交通死亡事故の多発により、昨年4月17日からの3か月間、埼玉県知事から、「交通事故防止特別対策地域」に指定される事態に至りました。

特殊詐欺による被害も、過去最悪の事態となっております。

こうした状況を深刻に受け止め、関

折り込んである「草加松原太鼓橋ロードレース大会」「健康カレンダー」は、抜いて読んでください。



…このマークは、「市制60周年記念事業・協賛事業」です